



**Germany, Japan and the Atom:  
a Nuclear Approach to Comparative History**

**Prof. Joachim Radkau  
(Bielefeld University, Germany)**

主催：大阪市立大学文学研究科重点研究

共催：大阪市立大学文学研究科インターナショナルスクール

日時：2012年1月31日（火）18:30-21:00

場所：大阪市立大学文化交流センター（大阪駅前第2ビル6階）、  
大セミナー室

\*参加費無料／事前申込不要／一般来聴歓迎

\*使用言語：英語（質疑応答は通訳つき）

講演者紹介：ドイツ・ビーレフェルト大学名誉教授（環境史）

講演概要：日独両国の戦後史には目立った共通点がある。ともに破滅的な敗戦から立ち直り、「経済の奇跡」を経験し、ともに核保有を求めながら核保有国とはならなかった。両国は核をめぐる長く似たような歩みを経験してきた。ドイツでは当初「平和的な核」への熱狂は日本より大きかったが、その後核をめぐる論争は世界のどの国よりも熱を帯びて持続した。福島原発事故も、ドイツでは日本よりも大きな反響を呼んだように思われる。核エネルギーの歴史はパラドックスに満ちている。日独の相互比較から見えてくるものを考えたい。